

私は、深谷市が大好きです。深谷市で育つことができたと常に思います。深谷市の魅力は数えきれないほどありますが、その中から2つのことを紹介します。

一つ目は「人が優しい」ということです。

深谷市の方々は、ボランティア活動などを通して私達中学生のことを見守ってくださいます。私の学校では、花ボランティアさんや学校応援団さんなど様々なボランティアの方々に支えられています。私達が見える所で安全に楽しく日々生活できています。これらのことは当たり前ではないので日々感謝ういして生活をしていかなければいけないと思います。また、深谷市の方々のように、自分が住んでいる街や国に貢献できるような大人になりたいとも思いました。

二つ目は、「農業が盛んである」ということです。深谷市の有名な農産物は、深谷ねぎやチューリップを思い浮かべることが多いと思います。その他にもブロッコリーやトウモロコシなども有名です。しかも、深谷市で作られているので、野菜は本当においしいです。深谷市のおいしい野菜のおかげで、私は野菜が大好きになりました。また、学校でも野菜などを育てており農業を身近に感じることができます。深谷市の農産物をもっと多くの人に知ってもらいたいと思っています。

深谷市には魅力もたくさんありますが、課題点もあります。それは「少子高齢化」と「農家減少」です。

少子高齢化は最も深刻な問題で、働き手の若い人が減少し、高齢者が増加しています。また、年々進んでいるのが実態です。このままでは進んでしまうので、何か手を打たなければいけない状況にあります。農家減少についても深刻な状況にあります。このままの状態では農家の減少に歯止めがかからないと、私の大好きな深谷ねぎやブロッコリーなどが食べられなくなってしまう恐れがあります。そして魅力としている、「深谷の農業」というイメージが薄れてしまいます。

私は、この課題点を知った時、どうにかしなくてはと思いました。深谷市についていろいろ調べ、考え、二つの解決策を考えました。

少子高齢化については、深谷市の暮らしやすさをもっとPRして人口を増やすということです。深谷市の人々が優しいという魅力や、保育施設の充実さをPRすれば、子育てもしやすく住みやすいという良さが伝わり、多くの人に伝わることで人口増加につながると考えました。

農家減少については、学校の夏休みなどを利用して農業体験を企画するというです。農業というものをやったことがないので、大変そうというイメージが強いと思います。そのため、実際にやってみる事で楽しさに気づくことができれば、やってみたいという思いになると思いました。

私はこれまで深谷市に支えられて生きてきました。でも、次は私が深谷市を支える番だと思えます。ただ生活するのではなく、深谷市点いて知り、どうすればもっと良くなるかを考えて生活していきたいです。そして、考えたことを実際に行動に移して生きていけるようにしたいです。

深谷市の魅力をもっと、日本中に伝えられるように頑張っていきたいです。

友だちを大切に

上柴中学校 3年 菊地琉杏

「がんば、るあん」

私は、小学校5年生の頃からボルダリングというスポーツを習っています。ボルダリングとは、壁にいろいろな色のホールドという石がついていて、それを決まった手順でつかみ、登っていくというスポーツです。私は小さい頃から人見知りであり話したことがない人と話すのが苦手でした。そんな私に、人見知りや消極的な性格が少しでもよくなればと思って薦めくれたのが父です。私は父に「友だちをたくさん作りなさい」「友だちを大切にいなさい」と言われます。前に一度「何でそんなに今でも友だちがいるの」と聞いたことがありました。すると、「約束を守るとか、相手の立場になって考えるとか、友だちを思いやることなんじゃないかな。」と話してくれました。その時はそうかなと思う程度でしたが、ある出来事を通して強く思うようになりました。

中学1年生の時でした。私にはA子という幼稚園からの親友がいます。ある日、いつものように学校に行き、A子に「おはよう」と声をかけました。するとA子は、私の声が聞こえなかったように他の子のところへ行ってしまいました。『あれ？何で返してくれないんだろう。もしかして聞こえなかったのかな。』と思い、もう一度「おはよう」と声をかけました。しかし、A子は無視をし、他の子と喋っているだけでした。私は『何で無視をするんだろう』と思いつつも、『まあ、時間が経てば大丈夫だろう。』と軽く考えていました。しかし、A子はその日、私と口をきいてくれませんでした。私はA子がなぜ無視をするのかわからず、次第にイライラしていきました。『私はなにもしていないのに、A子が勝手に怒っている』ときえ思っていました。そんな状態が3日ほど続き、私のイライラはつゆり、夜もよく眠れず、この先どうなるのだろうと不安で一杯でした。私は何とかしなければと思い、勇気を出してA子の家に電話をかけました。最初は怒っていて何も言ってくれませんでした。だんだんと原因を話してくれました。話を聞いてみると、私が何気なく言った、「文化部って疲れないし、楽しそうだね」と言う言葉に傷ついたと言っていました。私は自分の軽はずみな言葉が原因だと気づき、すぐに「ごめん 私が悪かった」と謝りました。A子も許してくれました。危うく親友を失うところでしたが、仲直りをすることができました。本当によかったです。周りの人から見ればたわいのないことだったのかもしれませんが、私にとっては重大なことでした。

今全国で、いじめが原因で様々な問題が起きています。新聞やニュースなどで、いじめている人が、「遊びのつもりだった」「何も言わないから大丈夫だと思っていた」という言葉を言っているのを見て、驚きと同時に悲しい気持ちになりました。どうしてなんだろう。なぜなんだろうと考えさせられました。その時、私は父の言葉を思い出しました。「約束を守ること、相手の立場になって考えること、相手のことを思いやること」と言う言葉でした。すぐに、いじめをゼロにすることは難しいでしょう。でも、私は相手のことを思いやる気持ちをみんなが持つことで「いじめ」は必ずなくなるのではないかと考えています。私は来年高校生になります。高校は中学とは違い、知らない人との出会いがたくさんあります。もちろん意見の行き違いが起きたり、喧嘩になったりもするでしょう。その時は、相手の立場になって考え、相手のことを思いやる気持ちで接して解決していきたいと思っています。そして大人になっても仲良くできる友だち関係を築いていきたいと思っています。もちろん、大好きなボルダリングの仲間も大切にしていきたいです。

前の自分、今の自分、これからの自分

幡羅中学校 2年 茂木雅也

この世の中で悩みをまったく持たない人はいないと思います。その悩みの理由も様々です。しかし、それぞれの人が悩みに向き合い、解決しながら生活しています。悩みを抱え、考え、解決する、の繰り返しなのです。

もちろん僕もそうです。今、自分の生活はとても充実しています。ただそれは、友達関係、学習面、部活など、様々な悩みと向き合い乗り越えてきたからこそ手に入れられた生活なのだと思います。

以前の僕は体型のことでとても悩んでいました。保育園の頃は何とも思っていませんでしたが、小学校に上がるにつれて段々自分の体型が気になってきました。そのことによって小学生の間はとてもマイナス思考でネガティブなことばかり考えていました。しかし、このままではいけないと思い、何かスポーツを始めることにしました。バスケットを選択した僕は、辛い練習や合宿に何度もめげそうになりながら、それでも気持ちを奮い立たせ、バスケットに打ち込みました。すると、運動することで体型も気にならなくなり、自信もつきました。

次にぶつかった悩みは、人間関係です。僕の趣味はアニメを見ることです。それをなかなか友達に理解してもらえず、「そんなの観ているの？気持ち悪い」などと言われ、傷ついたこともあります。しかし、アニメが好きでいることをやめられないし、隠して生活するのも辛いので、「これは自分の個性だ」と思い、堂々と友達と接するようになりました。すると、「これが雅也だから」とみんなに認めてもらえるようになりました。自分らしくいる大切さを感じました。

最後の壁は部活でした。小学生の間、ずっと続けていたバスケット部とバレー部で最後まで悩みましたが、結局バレー部を選択しました。最初のヶ月は、バスケットに行った方がよかったか、自分はバレー部を続けていけるのか、ずっと悩みながら部活をしていました。しかし、自分の決めた道を信じて頑張っていくと、どんどん上達し、バレーが好きになっていきました。最後の大会でも好成績を残し、選抜のクラブチームにも声をかけていただきました。自分が頑張ったことを認めてもらうことほど嬉しいことはありませんでした。

僕はたくさんの悩みを抱えて生活しています。大きな悩み、小さな悩み、様々です。その度に悩みを乗り越えてきました。悩みというものは、抱えているときはとても辛いものです。しかし、悩みを乗り越えた先には悩みを抱える前よりも確実に成長した自分がいます。その自分に会うためのステップだと思えば、しっかり向き合えます。

そして、僕が悩みを乗り越えられたのは自分一人の力ではありません。一緒に頑張ってきた仲間、指導やアドバイスをしてくださった先生、支えてくれた両親、多くの人のフォローがあって今の自分がいます。感謝の気持ちを忘れずにいたいです。

僕の人生はまだまだこれから続いていきます。今以上に大きな悩みがたくさん降りかかってくると思います。しかし、これに押しつぶされず乗り越えた先に明るい未来があると信じてこれからの人生を歩んでいきたいです。

将来の夢

明戸中学校 3年 笠原彰斗

僕の将来の夢は、プロモーグル選手です。そのために冬は毎週のようにスキー場に行って、コブと呼ばれる凹凸やモーグルコースを滑ったり、エアーを飛んだりして、練習に励んでいます。夏にもウォータージャンプで大会のためにエアーの技を練習します。もちろん、一人で練習しているのではなく、コーチやスキースクールの校長先生、父などにいろいろなアドバイスをもらい、夢に向かって努力しています。

僕がスキーを始めたきっかけは、スキーをやっている父がいたからです。そして父も、祖父の影響でスキーを始めたそうです。親子三代スキー一家です。

スキーを始めた三歳ごろは、まだ一人で滑ることができませんでした。父に手伝ってもらいながらでしたが、とても楽しかった思い出です。小学生になると、少しだけ一人で滑れるようになり、小学三年生ではだんだんコツをつかんで、以前よりも長い距離を一人で滑れるようになると、父は「よかったな」とほめてくれました。このときの気持ちは今でも忘れられないくらい、とてもうれしいものでした。

僕はこの出来事をきっかけにスキーにのめりこんでいき、プルークボーゲンからターンを覚え、急なコースも楽しくなっていました。コースにはたくさんのコブがあり、滑っているうちに自然とコブが好きになって、気がつけばいつもコブを滑るようになっていました。

そして、僕に転機が訪れました。2014年ソチオリンピックを観ていたとき、ひとつの競技にすっかり心を奪われてしまったのです。30度以上の斜面にあるコブをすごい速さで滑り降り、途中にある二つのエアー台で大技のジャンプを決める選手を食い入るように見つめていました。その瞬間から、「モーグルでオリンピックに出たい」という夢を追いかけて、僕はモーグルを始めました。小学六年生の冬のことです。

中学一年生からはモーグルのスクールに通い、アドバイスをもらいながら練習を始めました。中学二年生からは本格的に練習し、夏場もスクールの校長先生の所でエアーを百本以上練習して、大会で使える簡単な技から習得し、冬には初めての大会に出場しました。本当に緊張しましたが、最後まで滑りきることができました。すると三月には、JOC ジュニアオリンピックに連れていってもらえることになったのです。今度はコースも難しく、出場している選手のレベルも高くて、本当に出場するのかと恐ろしい気持ちになりましたが、コーチに声をかけてもらい、安心して滑りました。結果は決して良いとは言えませんが、とても良い経験となりました。これも、両親やコーチ、校長先生などの支えがあったからこそだと思います。

僕には、憧れの選手が二人います。一人は、カナダのミカエル・キングズベリー選手です。通称ミックと呼ばれている彼は、オリンピックや世界選手権、W杯でたくさんの優勝をし、絶対王者とも呼ばれるカッコいい選手です。世界で勝ち続けていくことは、僕には想像もできないくらい大変なことだと思います。素晴らしい技の裏には、言葉で表せないくらいの厳しい練習、努力があるはずで、それを乗り越えて王者であり続けるミックを、僕は心から尊敬しています。そしてもう一人は、日本の堀島行真選手です。過去には十五歳という若さで日本代表入りを果たし、今年の三月にスペインで行われた世界選手権では十九歳でミックをおさえて日本人男子初の総合優勝を成し遂げました。堀島選手は年齢も近く、ミックと並ぶ実力を持った僕の目標となる人です。

僕の夢は叶えることが本当に難しいです。今の僕のままでは夢のまま終わってしまうので、誰にも負けなくらい練習をして、きっと夢を叶えたいです。そして、憧れの二人と戦うことができたなら、絶対に勝ちます。これからも僕を支えてくれた人たちへの感謝を忘れずに努力を続け、いつかは僕が、みんなの憧れの選手になりたいです。

「続いてのニュースは、中学2年生の女子生徒が、いじめを苦しんで自殺したという・・・」 　ただ、またいじめによる自殺のニュースだ。私は最近、学校のいじめや嫌がらせが原因で自ら命を落としてしまうニュースをよく見る。友達からいじめを受けるのは辛い。私だって経験はある。でも、自殺を考えるほどのものではなかった。では、生きてはいけないほどのいじめとはどんなものなのだろうか。もしかしたら今、私達の周りで、叫びたいのに叫べない思いを、心の中に抱えている人がいるかもしれない。今、この瞬間も、仲の良いあの子も。それを救うことができるのは、一番近くにいる私かもしれない。

「おはよう。」学校にはみんなの元気な声が飛び交っている。豊里中学校にはいろいろな生徒がいて楽しい。面白い子、頭のいい子や本が好きの子。いろいろな人がいるからこそ、この学校もクラスも成り立っている。でも、それぞれ皆、完璧なわけではない。あまり目立たない子や、友達といるのが苦手な子もいる。そして、そのような子は標的になりやすい。「あの子って変だよ。」「いつもしゃべらないよね。」陰でこそこそ悪口を言う人もいる。「だめだよ！そんなこと言っちゃ！」と言いたいけれど、なかなか勇気が出ない。言ったら自分が標的にされるかもしれないから。心の中では、言わなくてはいけないと言う気持ちがあっても、行動に移せないのが私の昔からの悪い癖。陰口だけでなく人の物を見て笑ったりする人もいる。昼休み、私は教室で友達と話していた。すると、前から男子生徒の笑い声が聞こえた。自然とそっちを見ると、男子生徒がある女子生徒の筆箱を取り上げて、バカにするように笑っていた。見ている方も腹が立った。本人はすごく嫌がっているのに、気づくことができないのだろうか。「気づかせてあげなければいけない。注意しなければいけない。勇気を出せ、私。どうして黙っているんだ。」女子生徒は筆箱を取り返し、机の奥にしまった。そして、私に話しかけてきた。「笑い者にされて嫌なんだけど。」なんて言えばいいのかわからなかった。私は「ずっと後ろから見ていたよ。」とは言えずに、「何かあったの？」と知らない振りをしてしまった。私の心は情けない自分にカンカンに怒っていた。本当はわかっていたのに、何も言えない自分が悔しかった。あの時注意したら、どうなっていたのだろうか。助けてあげた女子生徒に「ありがとう。」と言われたらどうか。それとも、周りのみんなに注目されて浮いていたらどうか。それなら、注意をしなかったのは正解だったのか。いいや、違う。どんな状況でも、助けてあげるべきだった。嫌な思いをする人が、その時間が少しでも減るように。「次こそは！」と、私は心の中で、強く一歩を踏み出した。

「いじめや自殺について、どう思われますか。」自分が少し変わっても、悲惨なニュースは変わったりしない。いじめが原因で落とすことになった大切な命。まだこれから楽しみは数え切れないほどあるはずなのに。自殺をしてしまった子の周りには、助けてあげられる人はいなかったのか。いや、もしかしたら、気づいていた人がいたかもしれない。たった一言声をかける、一歩の勇気がなかっただけで。私が今、いじめや自殺と聞いて強く願うこと、それは一人一人の違いを認め合って欲しいということ。人には、自分には合わなかったり、苦手だったりする人がいる。でも、みんなが違うからこそ生まれるものがある。反対にみんなが違うからこそ起こる問題も。人と人は複雑に結びついている。他人と認め合うのは大切だけれど、素直になれないときもある。そんな時こそ、周りの誰かの一言が、大切な命を救うのかもしれない。勇気を出し、一歩を踏み出せる私になりたい。

すっかり冬になり、布団に入ってから寒く感じられるようになりました。そんな時そばに寄り添ってしてくれるのは、我が家の猫たちです。僕の腕の中でごろごろとのを鳴らす姿は、本当にかわいらしいです。

さて、先日、僕は大好きな有名なバンドのライブに行ってきました。このアーティストのライブに行くのは、もう数回目になるのですが、何かいつもと雰囲気の違いがありました。なんと、そのライブは、動物殺処分ゼロを目指すためのチャリティーライブだったのです。

そこで僕は、全国で保健所や動物愛護センターに連れて行かれる犬と猫は年間でおおよそ十一万匹、そのうち六万匹が殺処分されている現状を知りました。あまりの数の多さに、僕は言葉を失いました。届けられた犬と猫のうち、九万八千匹は飼い主の分からない野良犬と野良猫で、多くは生まれたばかりの子猫、

残りの一万六千匹は、飼い主が自分の都合で手放したペットだそうです。

僕は憤りを覚えました。飼い主が高齢になって飼えなくなるケースもあるそうですが、「ペットが年をとって世話をするのが無理」とか「仕事が忙しいから」とか「大きくなったら可愛くなくなったから」とか…身勝手なケースも少なくないそうです。

殺処分するのは、保健所や動物愛護センターです。引き取られた子たちは、新しい飼い主が見つかるよう譲渡会などで限られた期間、機会を待ちますが、それが出来なかった子たちは、注射やガス室で処分されます。センターの職員さん、各地のボランティア団体の方々が懸命に命を救おうと努力し、年々殺処分数は減ってきているそうですが、それでもたくさんの命が、人間の身勝手さによって毎日のように消されています。

僕が生まれた時、うちにはすでに一匹の雄猫がいました。母が独身の時から飼っている猫だと聞いていたので、母は子どもの頃から動物を飼っていたのだと思い込んでいました。

しかし、そうではありませんでした。その子は母が勤務していた障害者施設に子猫の頃捨てられていたそうです。施設の特質上、

「きっと飼ってくれるだろう」という勝手な思い込みからか、時折犬や猫が捨てられていくそうです。施設の所長さんは、飼い主探しを始めましたが見つからず、また母はアパート暮らしで動物を飼うことが出来ないのを手上げることは出来なかったそうです。

しかし、ある日の朝礼で「今日飼い主が決まらなかったらこの猫は保健所に連れて行きます」という所長の言葉に「私が飼います」と手を上げてしまったというのです。なぜならば、偶然その日が母の誕生日で、母は自分の誕生日にこの猫が殺されるのは耐えられなかったのだそうです。そうして、我が家のリビングにはいつも、どこからかもらったり、捨てたりした猫が暮らすことになったのです。

ペットショップでは数十万円もする犬や猫が売り買いされています。そのために、血統書付きの子供を産むためだけで一生を終える犬や猫もいるそうです。その裏で殺されていく、たくさんの命。色々なことを知るにつれ、

人間の身勝手さに怒りを覚えました。

しかし、中学生の僕に出来ることはと考えた時に、自分の非力さを思い知りました。我が家ではこれ以上飼うことは難しいし、僕は寄付するお金も稼ぐことは出来ない。

そんな時、ボランティア団体の方の言葉にはっとさせられました。「まずは、知ってください。」

そう、僕は知ったのです。だから、それを周りの人たちに伝えていこうと思います。そしていつか、大人になったときに、出来るときに出来ることをしていこうと思います。

僕は、友達に、家族に、皆に伝え続けます。

日本中の人が、この現状を知り、そしていつか、殺処分ゼロの日を迎えられるように。

私には常日頃考えていることがあります。それは、「性善説」と「性悪説」についてです。皆さんはこの言葉を聞いたことがありますか。簡単に言うと、「性善説」とは「人間は生まれながらに善の存在である」というもので、「性悪説」とは「人間の本性は悪だ」とするものです。皆さんはどちらの考え方に賛成ですか。私はこの説を知ったとき、自分は性悪説だと思いました。今、世界はテロが起こったり内戦が起こったりと、争いで満ちあふれています。イマヌエル・カントの『永遠平和のために』という本の一節に「平和は人間にとって自然な状態ではない。それどころか、戦争こそが自然な状態である。敵意はただ戦争のみに見られるものではなく、我々は常に敵意に脅かされている。」という言葉があります。戦争やテロがなぜ起こるのかというと、おそらく自国だけの利益を追求した結果、話し合いで解決できずに起こったり、宗教や価値観の違い、人種差別などの問題で起こったりするものだと思います。

戦争やテロだけではありません。身近なところでは「いじめ」の問題があります。人が人を苦しめる行為がどこかで行われているのです。なぜいじめは起こるのでしょうか。あるデータによると、いじめをする理由として「相手をいじめることで自分を肯定したい」「自分の強さを確認したい」「自分の存在意義を示したい」などの身勝手な理由が挙げられたそうです。もちろんどんな理由であれ、いじめは許されませんが、それで自殺してしまったり苦しんだりしている人がいる現実があるのです。こう見てくると、やはり人間とは、自分のことだけを考え、お互いに争い合う「性悪説」に基づく生き物だと思われそうです。

しかし、ここでちょっと立ち止まって、さらに世界に目を向けてみましょう。戦争が行われている国ではNGOなど、慈善活動をし、戦争に巻き込まれた人々を救う活動をしている人たちがいます。また、東日本大震災などの大災害が起きたときの人々の対応は、そのマナーの良さや優しさ、思いやりの行為として、世界に発信されました。こう考えてみると、人間の本性は「善である」ともいえます。皆さん、どのように考えますか。実は、私が初めに述べた「性善説」と「性悪説」にはもう少し付け足すことがあります。「性善説」では、人は生まれながらに善の存在であっても放っておけば悪を行うようになってしまうため、教育が必要であることを説いています。また、「性悪説」では、人間の本性は悪であり欲望的な存在に過ぎなくても、努力・学問を修めるなどして公共善を知り、礼儀をただすことができるとして、やはり教育の重要性を説いているのです。つまり、この二つの説は、人間の本性が善であったとしても悪であったとしても、教育を受け、学問を修めるなど努力しなければならないということを説いているのです。

確かに人間は弱い生き物です。人を羨んだり妬んだり…。人間にとって争いこそが自然なのかもしれませんが、だからこそ、私たちは互いに協力し合い、平和を作る努力をしなければならないのではないのでしょうか。私たちは一人では生きていけません。生まれたその瞬間から誰かに助けられ、また誰かを助けながら生きています。一緒にいるだけで、ただ言葉をかけてもらえるだけで、辛かったことが辛くなくなることもあります。人が人と共に過ごしていれば対立は生まれるでしょう。しかし私たちは、互いへの思いやりと自らを律する心を学ぶことにより、争いを乗り越えていけるのではないのでしょうか。

私は今、学ぶということの真の意味を考え、たくさんの人との新たな出会いにより、たくさんの人の考えに触れ、お互いを認め合う中で自分自身の考えをさらに深め、この命がつきるまで限りなく成長を続けていきます。

「ああ、いったいみんなは何を見ているんだろう。」と私は思った。これは私が姉と電車で出かけた時の事だ。私が疑問に思ったことは乗客が手にしているものだ。自分を見る鏡、それとも本、いや違う。今は電車で本や新聞を読む人を見かけることは少なくなった。そう、スマートフォンだ。略して「スマホ」と呼ばれている。私の隣に座っている人は40から50代のスーツを着ている男性だった。その人はスマホを横向きにして、一心に何かのゲームをしていた。正直どうなのかなと思った。向かい側では、おしゃれをした女の子三人がスマホを手に自撮りをしている。私の見る限り、寝ている人以外はほとんどスマホを手にしていた。私の隣の姉は、単語帳を手に勉強していて、少しだけ自分の姉を誇らしく思った。

スマホでゲームをしたり、写真を撮ったりするのがいけないという考えを持っているわけではないが、最近、スマホを持つ人は極度に依存しすぎたり、依存に限りなく近いのではないかと思う。特に、若者にその傾向が強く感じられる。私は以前、友達四人と遊びに行った。私以外の三人はスマホを持っていて、電車の中、食事の時もずっと無料でやりとりできる「LINE」や「ツイッター」をしていた。その日は、はっきり言うと楽しくはなかった。小学生の頃はまだ周りもスマホを持っておらず、会話が楽しめたが、スマホによってこんなにも会話が減ってしまうのかと驚いた。

最近の若者のコミュニケーション能力の低さの原因の一つは、このスマホにもあると私は考える。私はスマホ自体が悪いと言うのではない。スマホを使う人に原因があるのだ。スマホはニュースを読み、新聞の代わりや辞書の役目も果たしてくれる。忙しい人にとっては手軽に利用できる文明の利器である。しかし、学生はどうであろう。特に小学生や中学生にとって。ある調べでは、自分専用のスマホを持っている中学生は、自分専用のスマホを持たない人と比べると勉強時間が少ないことがわかっている。またスマホ、タブレット、パソコンなどの使用時間が五十分も多いという。勉強時間が減ると学力低下につながり、スマホ、タブレット、パソコンと向き合う時間が増えれば人と向き合う時間は確実に減る。実際に私はそういった経験をした。私がスマホやパソコンを頻繁に使っていたとき、勉強時間が減り、学校の定期テストの点数や順位がかなり落ちた。しかし、それらの機器を極力使わず、使う際には時間を決めて使うようにすると、勉強時間が確保でき成績も前のように戻った。今は、学習をタブレットでするものあり、社会生活をする上でスマホやパソコンを使った方が良いこともあると思う。しかし、便利である反面、問題点を抱えているのも確かである。特にインターネット上のトラブルである。それが時には死者をも出してしまう。

深谷市では、小中学生がインターネットを使う際、フィルタリング設定をする、夜遅くまで使用しない、困ったときには相談するという三つのルールが決められた「安心ふっかネット」がある。このルールを守ることで、インターネット上のトラブルもたくさん防ぐことができる。また、私の住む花園地区の幼稚園、小中学校では、テレビ、ゲーム、スマホ、パソコンなどのメディア機器の使い方を五項目でチェックしていく、「メディアコントロール」という取り組みをしている。これにより、メディア機器に振り回されない生活を目指している。私は自分の体験を通して、小中学生がスマホなどを使う場合は家族とよく考えて決まりを持つことが必要だと思う。そして、私はこれから、文明の利器であるスマホなどと上手に付き合い、豊かで楽しい人間関係を築いていきたい。

マナーについて

東京成徳大学深谷中学校 2年 野枝利光

みなさんは、公共の乗り物に乗る時、何を考えて乗りますか。私はまず最初に、他の人に迷惑をかけていないかどうかをよく考えて乗っています。ですが、マナーを守ることでできない人もいます。私は毎朝通学のため、バスと電車を使います。そのバスと電車で体験した事をこれから話したいと思います。

私はいつものように家の近くのバス停からバスに乗り込みました。車内は通勤、通学の人で満員でした。バスが発車し少しすると、どこからか音楽が流れてきたのです。それは、隣の人のイヤホンからでした。他の人も気付いているようで、みんな嫌な顔をしていました。自分もとても不愉快だったので、注意をしようと思いましたが、たくさん人がいたので、なかなか勇気が出ず注意することができませんでした。

電車でも同じく嫌な思いをしたことがありました。ある日、いつものようにホームで並んで電車を待っていました。電車が来たので私はまず、降りる人のためにドアの前をあけました。ドアが開き、乗客が降りようとしたその時です。後ろに並んでいた一人が、列を無視して無理やり車内に入っていき、堂々と空いている席に座ったのです。以前も同じようなことがあり、注意をした人がいたましたが、その人はあろうことか怒り出し、車内で言い争いになっていました。そのことが頭をよぎり、やはり言い出すことができずに朝からとても嫌な気分になりました。

このようにマナーを守らないということは、他の人に迷惑をかけ、嫌な思いをさせてしまうこともあるのです。最近では、そのようなことを防止するためのポスターや絵をよく見かけます。また、電車やバスの中では優先席についてのアナウンスをおこなっているのもよく聞きます。ですが、マナーを守ることが、なかなか全ての人に浸透しないという現実もあります。中でも私が最近一番気にしているのはタバコです。今、受動喫煙が大きな問題となっています。その影響で室内の喫煙所が多くなっていますが、全ての場所に設置されているわけではありません。外の喫煙所では、風に乗って周りに煙が広がりとても迷惑です。また、タバコは小さくて簡単に取り出せるので、道端で吸っている人も多く見かけます。その上、吸殻を道に捨ててしまう人までいるのが現状です。とてもマナーがなっていないと私は思います。タバコはその煙を吸うと、体内の臓器に悪影響を及ぼすことがあるのです。だからこそ、特に周りに気を付けて喫煙をしてほしいです。

マナーとは、礼儀や作法のことです。マナーを守ることが出来ない人は、他人に迷惑をかけ不愉快にさせてしまうのです。このようなことを防ぐためにも、まずは自分の行動をよく考え、確かめることを心掛けてみてください。自分や他人が、互いにより良い環境で過ごせるためにマナーがあるのだと私は思います。マナーを守っていない人がいたら、勇気を出して注意をするということも、良い環境を作るための第一歩だと思います。そのためには、まずは自分が迷惑をかけていないかを最優先に考えましょう。一つひとつの努力がより良い環境を作っていくための第一歩だと私は思います。

「あなたは何のために生きていますか？」

その答えは人それぞれで、正解のないものだと思います。だからこそ考える必要があります。そして私は、一つの道を見つけました。

『いままでなんかいも死のうとおもった。でもしんさいでいっぱい死んだからつらいけどぼくはいきるときめた。』

この文章を見て「はっ」と思いました。驚きと悲しみと感動とが混じった気持ちに一瞬で包まれました。

それは何気なくいつものようにテレビでニュースを見ているときでした。福島から他県へ転校した生徒がいじめを受けたというものでした。被災した方が他の地へ行っていじめを受けたことへの驚き、このような原因でいじめをする人がいることへの悲しみ、それでも生きるという強い決意の言葉への感動で胸がいっぱいになりました。そしてこの複雑な気持ちはテレビのニュースが終わった後も消えることはなく、薄れることすらありませんでした。

こんな経験は初めてでした。すごく考えました。そして私の前に現れた道、それは「私も生きなければならぬ。」というものでした。すぐにこの道にたどり着くことはできませんでした。たどり着くためには様々なことを経験し、考える必要がありました。

「〇〇の生徒がいじめられ、自殺していたことがわかりました。」

最近このようなニュースを聞くことが多いと感じます。それはいじめが社会問題として大きな関心を集めているからだだと思います。しかし、私には一つ、胸にひっかかる言葉があります。「自殺」——この行為だけは許されないと。どれだけ苦しくても自分で自分の命を絶つことは決してしてはいけないことです。そう考える理由は三つあります。

一つめは、大好きな祖父の死を経験したからです。病死でした。どうすることもできませんでした。言葉にはできない悲しみが私を襲いました。ショックで倒れたくらいです。誰かが死ぬと悲しくなる人がたくさんいます。だから死を自ら選んではいけない、そう思うのです。

二つめは、もしも私が死んだら…と考えたのです。私が死んだらどれだけの方が悲しむのでしょうか。きっとたくさんの方が悲しむのでしょうか。私はそんな人をずっと悲しいままにさせたくありません。だから、私はみんなを笑顔にするために生きています。しかし、ときには世界中の全員が、家族が、友達が、一瞬ずれ違う人でさえも敵のように思えることがあるでしょう。味方など存在しないのではないかと思えることがあるでしょう。そんなとき思い出すのです。自分がニュースを見て悲しむことがあるように、誰か知らない人の死でも心を痛める人がいることを。だから私達は生きなければならないのです。私はそう思うのです。

三つめは、相田みつをさんの詩に感銘を受けたからです。『いのち』という題でした。

アノネ
にんげんはねえ
自分の意志で
この世に生まれて
きたわけじゃねんだな
だからね
自分の意志で
勝手に死んでは
いけねんだよ

確かにそうだ、と思いました。生きる意味はこの短い詩の内容に尽きるのではないかと思ったほどです。

この命は自分で選んだのではなく、与えられたものなのです。だから、死は自分で選ぶのではなく、命が尽きたとき、寿命で迎えるべきなのです。

これら三つの理由から、自殺をしてはいけないこと、自分のためだけでなく人のためにも生きなければいけないということが言えると思います。そして、命を与えられた限り、その恩に報いるような行動をとらなければならないと思います。

生きていれば悪いことも良いこともあります。しかし死んでしまったら悪いこともありませんが、良いこともありません。そして、誰かが死ぬことでうれしい思いをする人もいません。人を悲しませることはうれしくありません。生きていれば必ずこれから良いことがあります。この世に命を授かった人間が一番大切にすべきこと、それは一生懸命に、がむしゃらに、何がなんでも生きることです。

あなたは、何の部活動に入っていますか。運動部ですか。それとも文化部ですか。私は、南中学校サッカー部で、部長をやっていました。3年生最後の大会を終えて、部活動も引退しました。

私が1年生だった時のことです。私が引っ越してきて、やっと友達ができたところに、友達と部活動について話をしました。

「おまえ、どこの部にする？」

「う〜んと、野球部かなあ。」

といった感じで、友達の多くはだいたい入る部が決まっていました。私はバスケ部かサッカー部かで悩んでいて、どちらにしようか決められずにいました。そんなとき友達から、部活が少しだけ体験できる部活動体験というものがあると教えられました。そこで、サッカー部にもバスケ部にも行ってみました。どちらの部もやりがいがありそうで、楽しくできそうでした。いろいろ考えた末、サッカー部に決めました。

1年生の頃は試合に出ることはなく、チームのためにボール拾いなどをしていました。

2年生になってからは、少しずつ試合に出られるようになりました。しかし、だんだんベンチに座っていることが多くなってしまいました。3年生が引退して、チームの中心が私たちになりました。私は部長に立候補しました。最初は不安ばかりでした。自分から声を出してチームを引っ張れるのかと、毎日不安に思っていました。それが現実となり、私たち2年生は試合に出られず、チームの主力は下級生の1年生になってしまいました。私もベンチ入りはできたものの、自分のポジションを下級生に取られてしまいました。

下級生にポジションを取られたまま、3年生になりました。学総まで残り少ない練習を今まで以上にがんばりました。そのおかげで、3年生が試合に出る機会も増えて、試合に勝てる数も増えました。チーム全体が学総に向けて本気で戦いました。そんな中で、自分は部長なのになにもできていませんでした。それが悔しくて、いつもチームに迷惑ばかりかけていると思っていました。それでも先生やチームのメンバーは、私のことを見捨てないで、支え、励まし、時には怒ってくれました。怒るのは私に変わってほしいからだと思い、私に寄せる期待の大きさを感じました。

学総当日。チーム全員が、全力で戦いました。ベンチからも声を出し、コートの中で戦っている人も声を張り上げました。結果は、決勝トーナメント敗退。自分たちは三試合中一試合しか勝てませんでした。それで私の中学校での部活は幕を閉じました。

私はこの部活動の経験から、中学校では勉強や学校生活も大事ですが、部活動を通して、仲間とともに何かを成し遂げたり、人間性を高めたりすることも大事だと思いました。私は1年生からやってきたサッカー部で、顧問の先生、外部コーチ、部員、保護者の方々からたくさんの支えをいただきました。小学校に比べて、人との関わりが倍以上に増えて、いろいろな世界を見ることができました。部活動をやっていく中で学年関係なく、仲間がたくさんできました。その仲間と、笑ったり楽しんだり、戦ったり泣いたりして、青春の1ページを作ることができました。その部活動の経験を生かして、夢を叶えたいと考えるようになりました。

私の夢は消防士になることです。なぜなら、人の役に立ちたいからです。人の役に立つ職業はいろいろありますが、私は消防士という職業に心ひかれました。消防士を最初見たのはテレビでした。消防士が重そうなホースを持ち、火を必死に消している映像でした。その姿はとてもしっかりと見入ってしまいました。

消防士になるには厳しい訓練をして、体力や強靱な心を養う必要があると思います。チームワークも必要だと思います。そこで、3年間頑張ってきた部活で身につけたことを生かしていきたいと考えています。これから迎える高校受験でも、部活で培った精神力や集中力を生かして頑張りたいと思います。